増林の

横井堀・掘削残土採集記

飛鳥・平安から中世・近世に至る遺物

２００６

増林の歴史を考える

そのⅣ

越谷市 増林 ２－４９４

山本泰秀

横井堀・掘削残土採集記

増林のふれあい橋そばの神明社前には、東西の方向に横井堀が流れている。源流は逆川（さかさがわ）で、源八酒店（現、セブンイレブン）の横から始まり、北から南へ増林小学校の横を流れ、下前（しもまえ）の地境にぶつかり、東に直角に進んで古利根川に流れ着く。下前の地境には、越谷駅から北東に進み、古利根川を渡り、松伏町に通ずる直線の道路（市立病院、総合公園、体育館を通り抜く駅前中央線と呼ばれる）が建設されようとしていた一部にかかっていた。平成七年三月に、ふれあい橋附帯工事として下前との地境を流れる横井堀樋管埋設工事が行われた。この時、横井堀掘削残土は、増林小学校西門の雑種地に一時期保管されていた。そこで私は、工事業者の許可を得て、三月十三日から残土保管期間の三月いっぱい遺物探しを行った。

掘り上げられた土は、粘土が混ざり合っていて、出土した遺物の分別に大変苦労したのである。七世紀前半の飛鳥時代の長甕の口縁部、九世紀の平安時代の順恵器の小皿、中世の灰袖の小皿等々が発見された。

これまでに私が増林で発見してきた遺物は、縄文、弥生、古墳期に限られていた。今回の遺物調査では、飛鳥、平安、中世の時期にこの増林の地に人々が住んでいたと思われる痕跡が発見され、今から数えて六〇〇〇年前から増林の地に人々が住み着き生活を始め、我々の祖先が今日まで延々と営み続けてきたことがわかった。

遠い昔の先人が残した断片的遺物によって、人類の歩みきたるその時代、その時代に生まれ育まれた文化の一端をつかむことができたといえる。

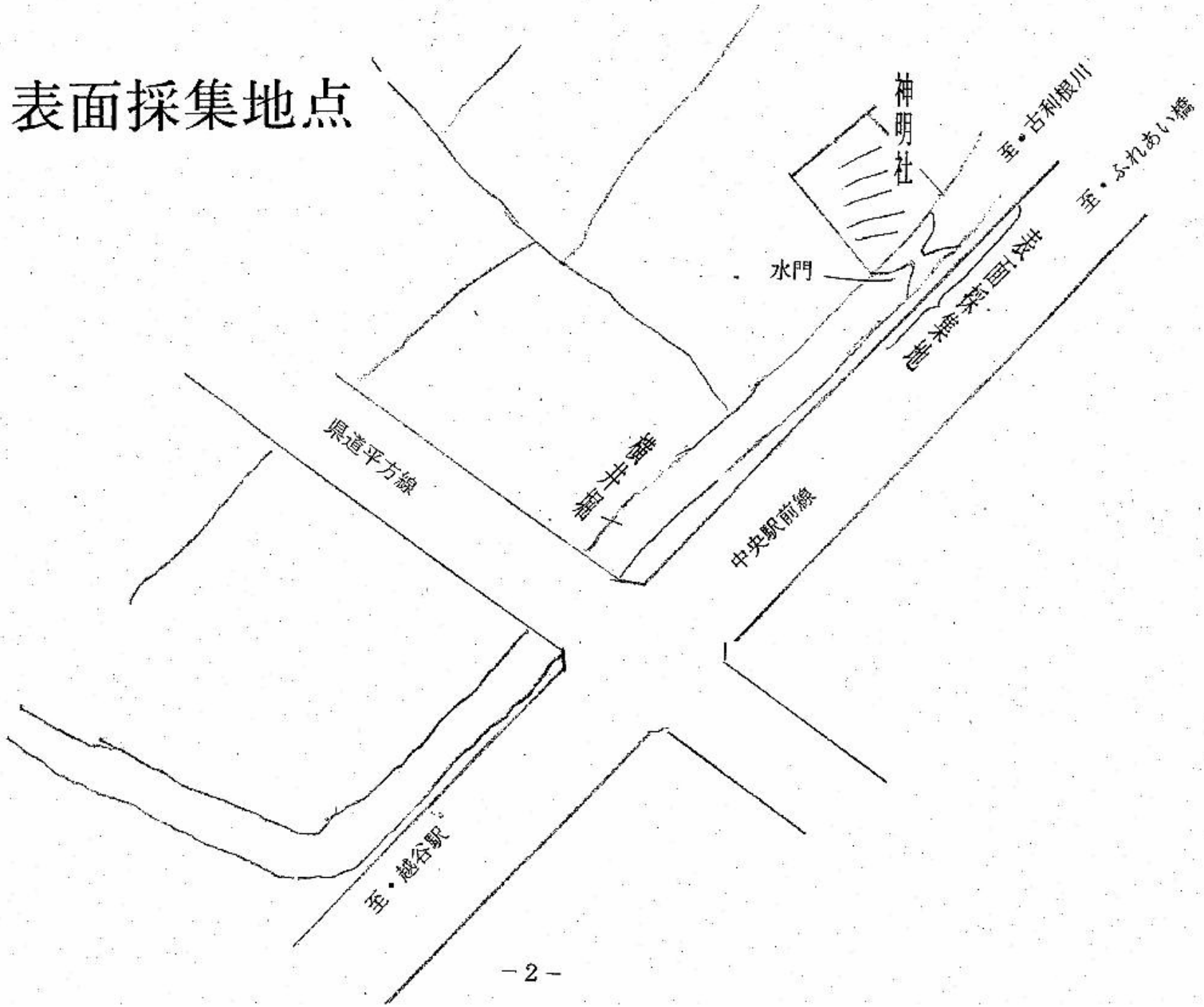
尚、今回発見した遺物の数々も、埼玉県埋蔵文化財資料部長の高橋一夫氏に依頼して、平成十二年七月十五日に鑑定していただいている。

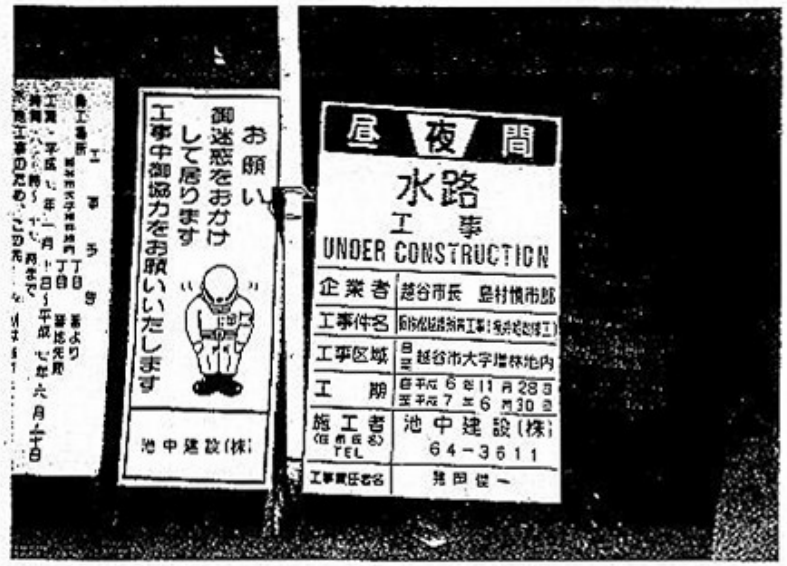
横井堀そばの神明社の創建

この神社はいつ頃創建されたのか、これまでは文献でしかわかっていない。ただ、江戸時代には仏教系色彩が濃く、境内には板石塔婆（板碑）が存在していた。秩父地方原産の緑泥片岩での石塔婆である。死者の菩提を弔う追善供養か自己の死後の供養を生前に行う逆修供養であるのか、石塔婆の破片しか現存していないのでいずれかの判断はつかない。

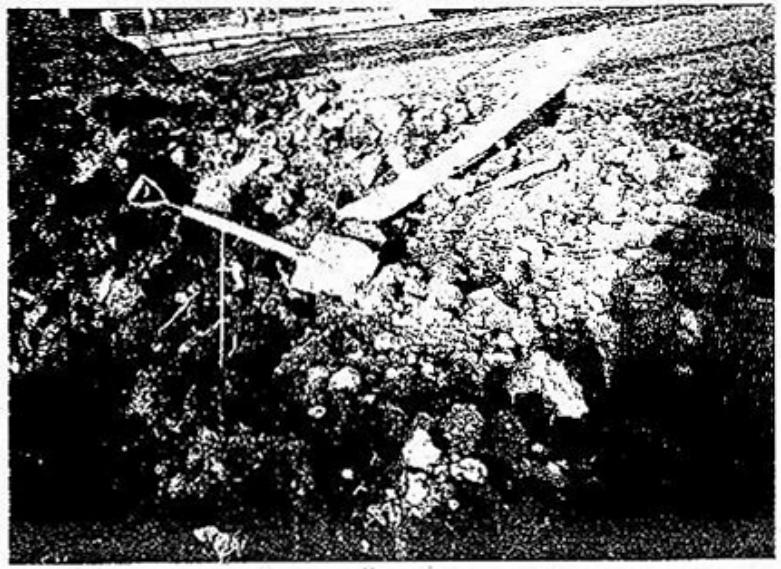
私が採集した二片の破片にも文字が無い。神明社近隣宅に、一片の板碑が祀られている。そこには、天正五年（一五七七）の年号と勢至菩薩の梵字が彫られてある。この板碑は、当地に須賀姓が居住してから三十六年後に建てられている。推察するに、この神明社は、天正五年には既に創建されていたのかもしれない。明治元年三月十三日と二十六日に大政官布告の神仏分離令が出されている。これにより、ここに安置されていた仏像並びに付随の仏具・石塔婆等が境内地より撤去又は破壊されてしまったと思われる。多くの文化が語られることなく、この世から姿を消してしまったことは、返す返すも残念なことである。

表面採集地点

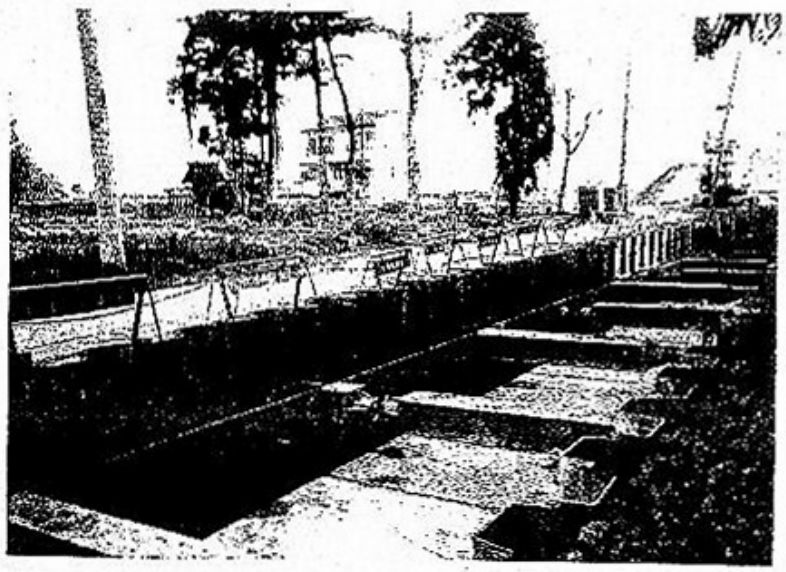




工事予告



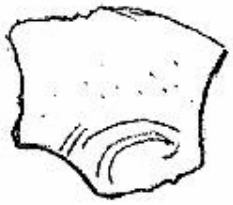
掘り出された残土



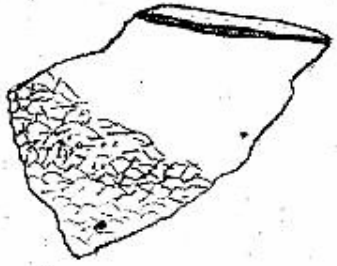
神明社前の掘削工事

増林小学校西門前の
掘削作業現場

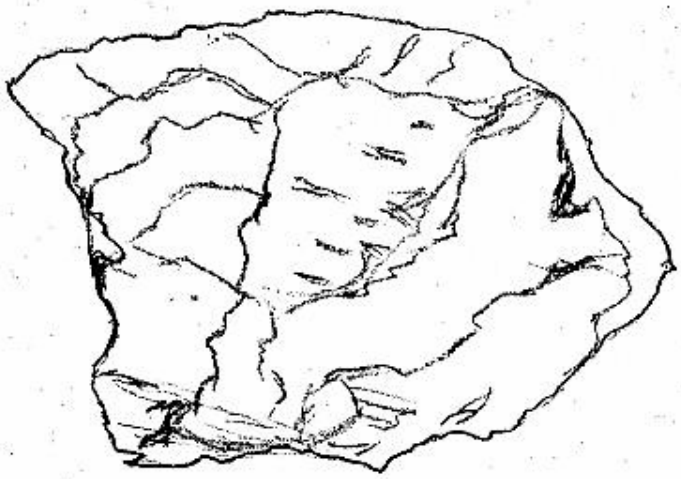
長　甕
7世紀前半



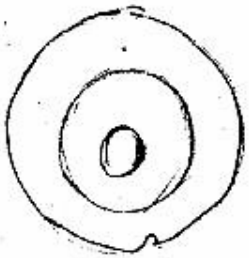
須恵器皿
9世紀平安前



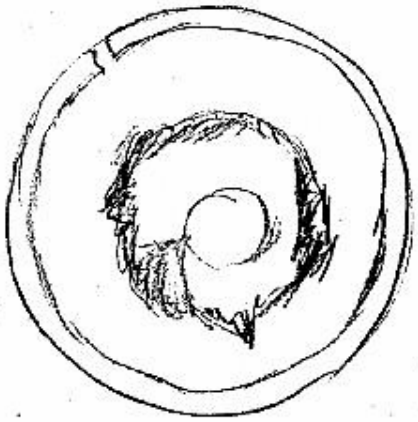
灰　釉
中　世



緑泥片岩
天正五年

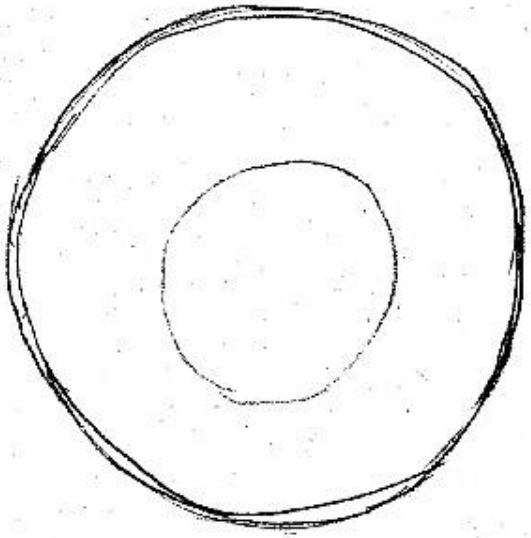


耳飾り？

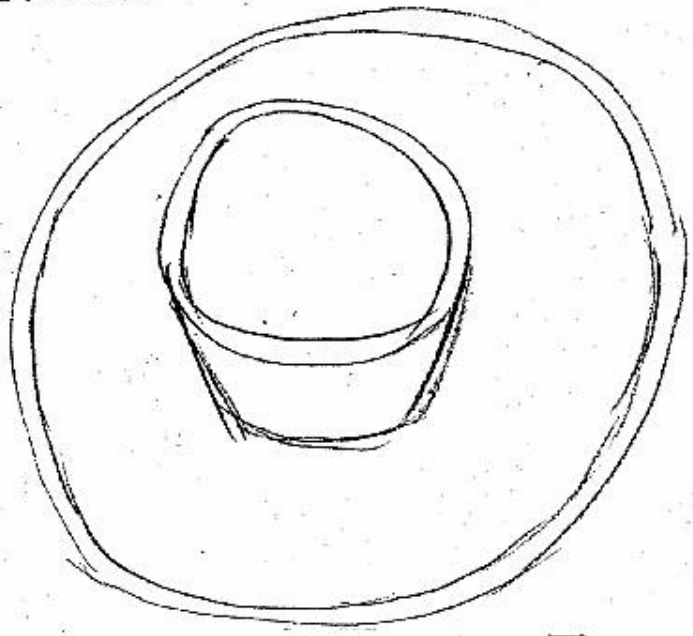


チョコ風

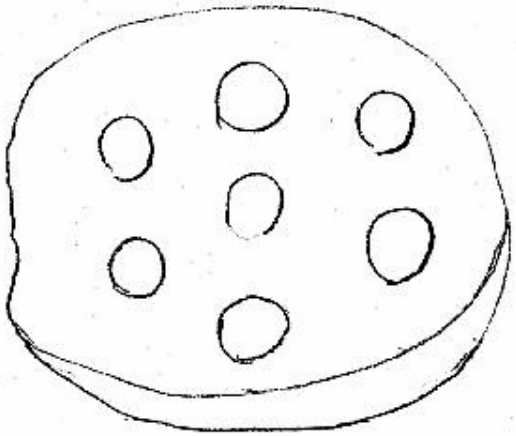
かわらけ（土器）の数々



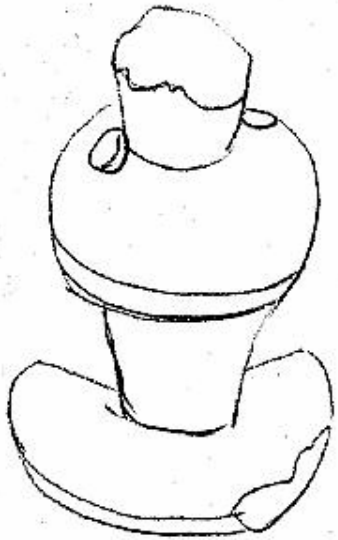
小皿風



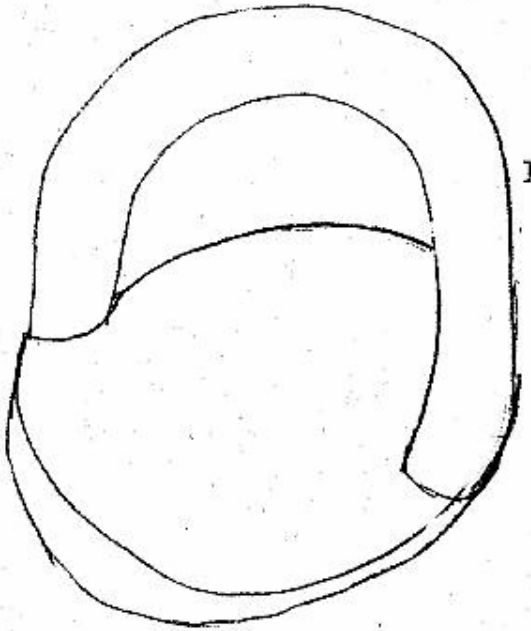
カップ＆ソーサー風



七輪

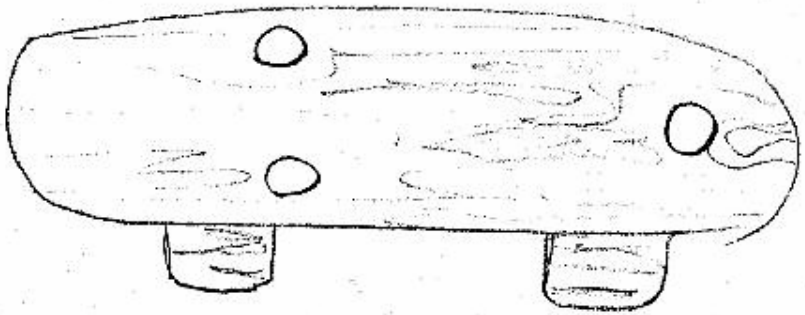


神・仏具



煎餅のし器

下駄（杉製）



結和

今回の発見は、七世紀、九世紀、中世、近代のごく部分的な遺物である。堀井堀という立地条件の中で発見されたものではあるが、増林地区の歴史の流れを解明する偉大な遺物であると思う。

勝林寺由緒記によれば、増林に逃げ延びて来た岩槻の渋江氏が合戦した多くの人々の菩提を弔う為に、天文元年（一五三二）八月、増林の観音堂を再建し、渋江氏の守護仏（岩槻城に祀ってあった十一面観音）を納め、法恩山勝林寺と号したとある。

この勝林寺の中興開山黙堂和尚は、渋江氏の長男で、それに係わる一族の者が勝林寺周辺に居を構え、須賀姓に改名したのである。勝林寺の過去帳を見ると、先祖を岩槻の侍、或いは、岩槻領の者という記載が残されている。

もう一方の氏子に宮川姓の人々がいる。増林に居する以前は、小田原に住んでいたという（小田原編年録）。小田原城主北条氏の家臣で、葉山村、中島村を支配していたという。天正十八年（一五九〇）に秀吉が北条氏を滅ぼした折りに、宮川は当地に落ち伸びてきたのである。宮川の多くは、徳川氏にはばかって明治初期まで苗字を中島と名乗っていた。

以上は、一連の歴史の中で読み取ることができる歴史の醍醐味である。

遺物のまとめ

増林で発見された土器

地域 / 時代	① 増林下前	② 増林下前	③ 中妻前	④ 山中
縄文前期 6000～5000前	○			
縄文中期 5000～4000前	○	○		
縄文後期 4000～3000前		○		
弥生前期 約2000年前				
弥生後期 3世紀			○	
古墳前期 4世紀		○	○	
古墳中期 5世紀				
古墳後期 6世紀		○		
飛鳥時代 7世紀				○
平安時代 9世紀以後	○	○		○
中世	○	○		○

① 草加・八潮両市の合同調査（昭和５６年）
② 増林下前・私が再調査
③ 前回、私が発見・発表した土器片
④ 今回、私が発見した土器片

若干埋まらない時代もあるが、大筋で縄文時代から平成の今日に至る間、増林に人々が住んでいた形跡が見えてくるのである。